

令和5年度 中学部 1年 (II課程 A類型) 数学科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
4	1学年 14名		算数☆☆☆ (文部科学省) 等

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。(中2段階) (思判表力)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(中1段階) (学・人)数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。(中1段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	(知及技)3位数の表し方について理解し、数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解することができる。(中1段階Aア④、⑤) (思判表力)数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考えることができる。(中1段階Aア⑦) (学・人)10や100のまとまりに着目して数を数えることの良さに気付くことができる。	(知・技)十が10個集まると百になることを理解し、十や百を単位として数を見るなど、数の相対的な大きさについて理解している。 (思・判・表)2位数の考え方を基にして、3位数へと考察する範囲を広げて数の大きさの比べ方や数え方を考えている。 (主学)数のまとまりと数え方、表し方の関係に着目することの有用さを感じている。	「数と計算」 ・数のまとまり ・十進法位取り記数法	・3位数を100のまとまり、10のまとまりの個数と端数として表す。(知及技に関する活動) ・大きい位から小さい位に向けて数の大小を比べる。(思判表力に関する活動) ・一円玉100個と百円玉1個で、どちらが数えやすいかを比べてみる。(学・人に関する活動)
	16	(知及技)時間の単位について知り、日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。(中1段階Cイ⑦、⑧) (思判表力)時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすことができる。(中1段階Cイ⑦) (学・人)時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返ることができる。	(知・技)時間の単位について知り、日常生活に必要な時刻や時間を求めようとしている。 (思・判・表)時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かそうとしている。 (主学)時刻や時間に関する言葉を使って、身の回りのことを表現しようとしている。	「測定」 ・時間の単位 ・時刻	・1時間=60分、1分=60秒を確認し、時間の計算をする。(知及技に関する活動) ・日課表やバスの時刻表を見て、開始時刻や終了時刻を判断したり、1日のタイムスケジュールを立てたりする。(思判表力に関する活動) ・睡眠時間や食事の時間、息を止められる時間等、適切な時間の単位を用いて表す。(学・人に関する活動)
	16	(知及技)直線や三角形、四角形について知ることができる。(中1段階Bア⑦、⑧) (思判表力)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えることができる。(中1段階Bア⑦) (学・人)身の回りにあるものの形の中に三角形、四角形があることに気付くことができる。	(知・技)直線や三角形、四角形について知ろうとしている。 (思・判・表)辺や頂点等、図形を構成する要素に着目し、三角形や四角形の構成要素を整理しようとしている。 (主学)身の回りにあるものの形をよく観察して、三角形や四角形を見つけようとしている。	「図形」 ・直線 ・三角形 ・四角形	・三角形や四角形が、それぞれ3本、4本の直線で囲まれている図形ということを知る。(知及技に関する活動) ・いろいろな三角形、四角形をかく。(思判表力に関する活動) ・身の回りのものの中から、三角形、四角形の形をしたものを見つける。(学・人に関する活動)
2 学期	16	(知及技)2位数や簡単な3位数の加法及び減法について理解し、その計算ができる。(中1段階Aイ⑦、⑧) (思判表力)数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすことができる。(中1段階Aイ⑦) (学・人)日常生活における2位数や簡単な3位数の計算の必要性に気付くことができる。	(知・技)百のまとまりを捉えることで簡単な3位数の加法及び減法についての計算をしている。 (思・判・表)2位数を十のまとまりと端数にわけて考えることで、計算の仕方を導き出そうとしている。 (主学)具体的な例について考える中で2位数や簡単な3位数の計算の必要性を見いだせる。	「数と計算」 ・2位数の加法・減法 ・簡単な3位数の加法・減法 ・筆算	・2位数の計算、300-100などの百を単位とした簡単な3位数の計算をする。(知及技に関する活動) ・2位数の筆算。(思判表力に関する活動) ・カレンダーや時間の計算等、教室の中で、加法・減法で表されるものを見つける。(学・人に関する活動)
	12	(知及技)身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができる。(中1段階Dア⑦) (思判表力)身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすることができる。(中1段階Dア⑦) (学・人)身の回りの事象に関心をもち、グラフや表を用いて、数学的に表現・処理することができる。	(知・技)(知・技)表や棒グラフの表し方や見方を理解している。 (思・判・表)身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりしている。 (主学)自分で調べたデータを整理し、グラフや表を用いて、表現・処理しようとしている。	「データの活用」 ・データの分類 ・グラフの作成と読み取り	・バラバラに散らばっているデータから表やグラフを作成する。(知及技に関する活動) ・好きな食べ物や好きな動物などのグラフから一番多いものや一番少ないものなどを読み取る。(思判表力に関する活動) ・一週間の授業の各教科のコマ数や一週間の体温の測定結果などをまとめて、表にしたりグラフに表したりする。(学・人に関する活動)
	12	(知及技)目盛の原点を対象の端に当てて測定したり、長さの単位 [(mm)、(cm)、(m)、(km)] について知ったりすることができる。(中1段階Cア⑦、⑧) (思判表力)身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすることができる。(中1段階Cア⑦) (学・人)身の回りにあるものの長さに関心をもち、学習したことを使って表現しようとしている。	(知・技)目盛の原点を対象の端に当てて測定し、長さの単位 [(mm)、(cm)、(m)、(km)] について知ろうとしている。 (思・判・表)適切な長さの器具を用いて計量しようとしている。 (主学)身の回りにあるものの長さに関心をもち、学習したことを使って表現しようとしている。	「測定」 ・ものさしの使い方 ・長さの単位 [(mm)、(cm)、(m)、(km)]	・ものさしの使い方を確認し、直線を引く。(知及技に関する活動) ・1cm=10mm、1m=100cmであることを知る。(知及技に関する活動) ・教室や学校内にあるものの長さの単位を予想し、実際に計量する。(思判表力に関する活動) ・10cmの長さを紙テープなどで作成し、身の回りのものと比べ、量感を身に付ける。(学・人に関する活動)

3 学 期	16	(知及技)乗法について知り、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ることができる。(中1段階Aウ㉞、㉟) (思判表力)数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすことができる。(中1段階Aウ㉞) (学・人)数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法よさに気づくことができる。	(知・技)絵や具体物で表されているものを見て乗法を用いて式に表したり、式を読み取って絵や具体物で表したりできる。 (思・判・表)累加としての乗法の意味を調べる活動に取り組みながら、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見出そうとしている。 (主学)乗法を用いると式が簡潔・明瞭に表されることを理解し、乗法九九の必要性を感じている。	「数と計算」 ・1位数同士の乗法 ・九九	・「1つ分の数」「いくつ分」とをとりえ、「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知る。(知及技に関する活動) ・九九表を完成させ、十の段を作る。(思判表力に関する活動) ・例えば $9+9+9+9=9\times 4=36$ と表されることを確認する。(学・人に関する活動)
	16	(知及技)正方形、長方形及び直角三角形について知り、正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすることができる。(中1段階Bア㉞、㉟、㊱) (思判表力)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えることができる。(中1段階Bア㉞) (学・人)身の回りにあるものの形の中から、正方形や長方形、直角三角形などを見つけることができる。	(知・技)正方形、長方形及び直角三角形について知り、箱を分解しながら、正方形や長方形についての理解を深めようとしている。 (思・判・表)直角、頂点、辺、及び面について調べ、整理しようとしている。 (主学)身の回りにあるものの形をよく観察し、正方形や長方形、直角三角形の特徴を確認して図形を見つけ出そうとしている。	「図形」 ・正方形 ・長方形 ・直角三角形	・正方形、長方形の定義を知る。(知及技に関する活動) ・箱を構成しているものにはどのような形があるか調べ、整理して発表する。(知及技に関する活動) ・直角、頂点、辺、及び面の定義を知り、正方形、長方形及び直角三角形の構成について考える。(思判表力に関する活動) ・身の回りのものの中から正方形、長方形、直角三角形の形をしたものを見つける。(学・人に関する活動)
	24	(知及技)かさの単位 [(mL)、(dL)、(L)] について知り、測定の意味を理解することができる。(中1段階Cア㉞、㉟) (思判表力)身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすることができる。(中1段階Cア㉞) (学・人)身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、数学的に表現・処理することができる。	(知・技)かさの単位 [(mL)、(dL)、(L)] について知り、測定の意味を理解している。 (思・判・表)測定する対象の大きさや形状に応じた単位や計器を適切に選んで測定し、量を数値化して比較しようとしている。 (主学)身の回りに入る入れ物に入る水の体積に関心をもち、学習したことを用いて表現・処理しようとしている。	「測定」 ・ますの使い方 ・かさの単位 [(mL)、(dL)、(L)]	・かさの単位 [(mL)、(dL)、(L)] を知る。(知及技に関する活動) ・ $1L=10dL$ であることを知る。(知及技に関する活動) ・様々な計器について知り、数値の読み方を学ぶ。(知及技に関する活動) ・様々な大きさや形をしたものの計量をする。(思判表力に関する活動) ・身の回りに入る入れ物に入る水の量の単位を予想・計測・記録する。(学・人に関する活動)
留意点 引継ぎ等	生徒の実態や学習到達度、学習状況に応じて、単元等の順番を入れ替えて学習する場合もある。				

令和5年度 中学部 1年 (II課程 A類型) 数学科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
140	1学年 11名		算数☆☆☆ (文部科学省) 等

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。(中1段階) (思判表力)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(中1段階) (学・人)数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。(中1段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	(知及技) 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解することができる。(小算数3段階Aア④) (思判表力) 数のまとまりに着目し、数の数え方や大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。(小算数3段階Aア④) (学・人) 身の回りにあるものの数に興味をもち、学習したことを活用してその数を数えることができる。	(知・技) 100までの数を順序よく書き表したり、数えた数を数字を用いて表したりしようとしている。 (思・判・表) 具体物や絵に書かれたものの個数を10のまとまりと端数に分けて数え、数字で書き表したり、十進位取記数法の意味を理解して2つの数の大小判断をしようとしている。 (主学) 10のまとまりをつくって数える良さに気づき、身近にある具体物等を数えることに活用しようとしている。	「数と計算」 ・数詞 ・数順 ・十進位取記数法 ・2つの数の大小比較	・1から100まで数字を順序よく書き並べる。(知及技に関する活動) ・100までの数を正しく数えたり、数えた数を数字を用いて表したりする。(知及技に関する活動) ・位取りの意味を知り、大きい位から小さい位へと順番に数の大小を比べる。(思判表力に関する活動) ・整理されていない物を10ずつわけて整理し、10のまとまりと端数に分けて数えて数字で表したり、複数の物の数を比べたりして、多少や大小を判断する。(学・人に関する活動)
	16	(知及技) 加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりして、和が20までの加法の計算ができる。(小算数3段階Aイ④⑤) (思判表力) 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすることができる。(小算数3段階Aイ④) (学・人) 身の回りから加法が用いられる場面を見出すなど、加法の計算を生活や学習に生かそうとする。	(知及技) 加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりして、和を求めようとしている。 (思・判・表) 具体物や図などを用いて、計算の仕方を考えようとしている。 (主学) 加法が用いられる場面に興味をもち、進んで加法を用いようとしている。	「数と計算(整数の加法)」 ・「あわせていくつ」「ふえるといくつ」の言葉の意味 ・記号「+」の意味 ・式の作り方と答えの求め方	・加法の記号(+)を用いて場面を式に表し、絵図を用いて和を求める。(知及技に関する活動) ・式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。(知及技に関する活動) ・ブロック等を操作しながら、「あわせていくつ」「ふるといくつ」等の用語の意味と結びつけ、加法の計算の仕方を考える。(思判表力に関する活動) ・加法の計算が ・教室の中で、加法で表されるものを見つける。(学・人に関する活動)
	16	(知及技) 日常生活の中で時刻を読むことができる。(小算数3段階Cイ⑦) (思判表力) 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結びつけて表現することができる。(小算数3段階Cイ⑦) (学・人) 時刻の読み方を生活や学習に生かすことができる。	(知及技) 時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 (思・判・表) 時刻と生活が深く結びついていることに気づいている。 (主学) 時刻の読み方を生活や学習に生かすようとしている。	「測定(時刻や時間)」 ・アナログ時計の長針と短針 ・何時、何時半 ・5分単位のアナログ時計の読み方 ・学校の日課表や休み時間	・アナログ時計には長針と短針があり、数字が順序よく書かれていることを確認する。(知及技に関する活動) ・長針は「時」を、短針は「分」を表すことを知り、「ちょうど何時」「何時半」「5分刻みの時刻」の読み方を知る。(知及技に関する活動) ・学校の日課表と時計を見比べて、授業や休み時間の開始時刻や終了時刻を判断する。(思判表力に関する活動) ・学校の日課表と時計を見比べて、自分の活動に見通しを立てる。(学・人に関する活動)
2	16	(知及技) 減法が用いられる場合について理解し、場面を式に表したり、式を読み取ったりして、20までの数の範囲で減法の計算ができる。(小算数3段階Aイ⑦⑧⑨) (思判表力) 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすることができる。(小算数3段階Aイ⑦) (学・人) 身の回りから減法が用いられる場面を見出すなど、減法の計算を生活や学習に生かそうとする。	(知及技) 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりして、差を求めようとしている。 (思・判・表) 具体物や図などを用いて、計算の仕方を考えようとしている。 (主学) 減法が用いられる場面に興味をもち、進んで減法を用いようとしている。	「数と計算(整数の減法)」 ・「のこりはいくつ」「ちがいはいくつ」の言葉の意味 ・記号「-」の意味 ・式の作り方と答えの求め方	・減法の記号(-)を用いて場面を式に表し、絵図を用いて差を求める。(知及技に関する活動) ・式を読み取って具体物や絵図を用いて表したりする。(知及技に関する活動) ・ブロック等を操作しながら、「のこりはいくつ」「ちがいはいくつ」等の用語の意味と結びつけ、減法の計算の仕方を考える。(思判表力に関する活動) ・加法の計算が ・教室の中で、減法で表されるものを見つける。(学・人に関する活動)
	12	(知及技) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。(小3段階Bア④) (思判表力) 身の回りにあるものの形を図形として捉えることができる(小算数3段階Bア④) (学・人) 身の回りにあるものの形に関心を向け、身近なものと形を対応することができる。	(知及技) 三角形や四角形等の基本的な平面図形を並べたり、移動させたりと操作しながら、形を作ったり分解しようとしている。 (思・判・表) 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えようとしている。 (主学) 身の回りにあるものの形に関心を向け、身近な物と形を対応させようとしている。	「図形」 ・身の回りにあるものの形 ・図形 ・タングラム	・色板等を用いてずらす、まわす、裏返す等の作業を行いながら、身の回りにある具体物の形を作る。(知及技に関する活動) ・色板の形作りを通して、四角は三角二枚で構成できること、真四角が二つで長四角が構成できることに気づく等、図形に関する理解を深める。(知及技に関する活動) ・身の回りにある具体物の中から形のみに着目し、かどのあるなしやかどの個数等に注目して、形の特徴を捉える。(思判表力に関する活動) ・身の回りにあるものを図形として捉え、「教科書は四角だね」等、日常生活の中の表現として用いられるように練習する(学・人に関する活動)

1 学期	12	(知及技) 長さ、広さ、かさなどの量を比べる方法について理解し、比較することができる。(小3段階Cア㊟) (思判表力) 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすることができる。(小算数3段階Cア㊟) (学・人) 身近にあるものの長さ、広さ、かさに関心をもつことができる。	(知及技) 長さを直接比較するときは比べるものの端を揃える等、比べる方法に気をつけて比較しようとしている。 (思・判・表) 同じ数値であっても単位とする量の大きさを見ることで大小を考えることができることに気付いている。 (主学) 身近にあるものの長さ、広さ、かさに関心を持ち、いろいろな方法で大小比較をしようとしている。	「測定」 ・直接比較 ・間接比較 ・任意単位を用いた比較 ・いろいろなものの長さ、広さ、傘を比べてみよう	・端を揃えて二本の鉛筆を比べる等、直接比較によって、長短を比較する。同様に広さ、かさについても直接比較を行う。(知及技に関する活動) ・直接長さを比べることができないものを紙テープ等に置き換えて長さ比べを行う間接比較によって、長短を比較する。同様に広さ、かさについても間接比較を行う。(知及技に関する活動) ・机の縦と横の長さを鉛筆のいくつかに置き換えて比べる等の任意単位を用いた比較を行う。(知及技に関する活動) ・絵の具3本分と物差し3本分ではどちらが長いのか、単位とする量を比べて比較する。広さ、かさについても同様に行う。(思判表力に関する活動) ・直接比較、間接比較、任意単位による比較等、学習したことを利用して、自分が興味のあるものの長さ、広さ、かさ比べを行い、その結果について発表する。(学・人に関する活動)
	16	(知及技) 長さの単位 [(mm)、(cm) (m)] について知り、測定の意味を理解することができる。(中数1段階Cア㊟) (思判表力) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすることができる。(中数学1段階Cア㊟) (学・人) 長さとその測定に興味を持ち、いろいろなものの長さを調べたり、長さの量感を身近な場面でいかそうとしたりする。	(知及技) ものさしのしくみや使い方、長さの単位 (mm)(cm)(m)のよみ方やかき方を理解して長さを(mm)(cm)(m)の単位を用いて表したり、ものさしを使って、長さを測定したり決まった長さの直線をかいたりしようとしている。 (思・判・表) ものの長さの見当をつけてから測ろうとしている。 (主学) 長さとその測定に興味を持ち、いろいろなものの長さを調べようとしている。	「測定(量の単位と測定)」 ・ものさしの使い方 ・長さの単位 ・重さの単位	・ものさしの使い方を確認し、直線を引く。(知及技に関する活動) ・ものさしの目盛りの原点を対象の端に当てて長さを測定したり、決まった長さの直線をかいたりする。(知及技に関する活動) ・1cm=10mm、1m=100cmであることを知る。(知及技に関する活動) ・1cmの長さの紙テープや1mものさしと、教室や学校内にあるものの長さを比較して単位を予想してから計測し、適切な単位をつけて表現する。(思判表力に関する活動) ・1mものさしや15cmものさし、メジャー等の道具を使って様々なものを測定し、量感を身に付ける。(学・人に関する活動)
3 学期	16	(知及技)傾斜をつくと角ができることを理解することができる。(小3段階Bイ㊟) (思判表力)傾斜が変化するときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現することができる。(小3段階Bイ㊟) (学・人)学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用できる。	(知・技)傾斜をつくと角ができることを理解している。 (思・判・表)傾斜が変化するときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいという言葉を使って表現しようとしている。 (主学)学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用できる。	「図形」 ・手作り滑り台を使ってビー玉を速く転がすにはどうしたらいいかな？	・斜面と底面によってできる形としての角を写し取ることで、角ができていることを確認する。(知及技に関する活動) ・滑り台の傾斜を変えてビー玉を転がす実験を行い、大きい・小さいという言葉を使って実験結果をまとめ、発表する。(思判表力に関する活動) ・身近なものの中から角を見つけ、角だけに着目して、複数の角を比較して大きい・小さいという言葉で表現する。(学・人に関する活動)
	24	(知及技) ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだり、比較したりすることができる。(小3段階Dア㊟) (思判表力) 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現することができる。(小3段階Dア㊟) (学・人) 簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現することの良さがわかる。	(知及技) ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだり、比較したりしようとしている。 (思・判・表) 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現する方法を考えようとしている。 (主学) 簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現することの良さを感じようとしている。	「データの活用」 ・ポウリングで勝ったのは誰？ ・1ヶ月間の天気調べ ・魚釣りゲーム	・ポウリングの対抗戦を行い、倒したピンをマグネットやシール、○等で置き換えて表や棒グラフで表し、数えたり、多少比較を行う。(知及技に関する活動) ・1ヶ月間の天気調べを行い、晴れマーク、曇りマーク、雨マーク等を種類ごとに並べて整理するために、どのような記号や絵を用いて表現すると良いかを考える。(思判表力に関する活動) ・ポウリングや天気調べの時に使ったものと同様な簡単な絵や図、記号を使って、魚釣りゲームで釣った魚の種類を整理する。(学・人に関する活動)
留意点 引継ぎ等	生徒の実態や学習状況に応じて学習の順番が適宜かわることがある。				

令和 5年度 中学部 1年 (II課程 B類型) 数学科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒		担当者	教科書／副教材	
105	1学年 14名			ドラえもんとおぼえよう！とけいのえほん	
目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度					
年間目標 (知及技)数量や図形などについて基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。(中1段階) (思判表力)身の回りの事象を数学的に考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質に気付き数学的に考察する力、事象を数学的に表現する力を養う。(中1段階) (学・人)数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。(中1段階)					
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	9	(知及技)大きい、小さいの用語がわかる。(小1段階Dア④) (思判表力)大小で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。(小1段階Dア⑦) (学・人)身の回りにあるものの長さに関心に向け、身近なものと長さを対応することができる。	(知・技)大きい、小さいという言葉の意味を理解している。 (思・判・表)複数のものを比べて大きい(小さい)のはどれか表現しようとしている。 (主学)身の回りにあるものの長さに関心に向け、身近なものと長さを対応しようとしている。	「測定」 ・身の回りのものの大きさを比べてみよう。	・大きい、小さいの用語を写真や絵カードで知り、その違いを理解する(知及技に関する活動)。 ・教師が示す対象物や写真を見て、大きい、小さいを表現する(思判表力に関する活動)。 ・生徒の好きなものや身の回りのものの大きさを比べ、自分で判断して表現する(学・人に関する活動)。
	15	(知及技)20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり、書き表したり、数の大小を比べたりすることができる(小3段階Aア(ア)⑦)。 (思判表力)数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。(小3段階Aア(イ)⑦)。 (学・人)数を用いて量を表すことの良さに気づくことができる。	(知・技)20までの数について、具体物を用いて個数を数えたり、数の大小を比べたり、数詞を唱えたりしようとしている。 (思・判・表)10までの数の数え方や大小比較等を元にしなが20までの数の数え方や表し方について考えようとしている。 (主学)10以上の数を表現できることの良さに気づき、身近にある具体物等を数えることに活用しようとしている。	「数と計算」 ・20までの数 ・一の位、十の位について知ろう ・色々なものを数えよう	・タイル、数字、具体物を結びつけて数について学ぶ(知及技に関する活動)。 ・一の位と十の位があることを知る。(知及技に関する活動) ・10までの数の数え方を元にして、11から20までの数の数え方を順番良く並べる(思判表力に関する活動)。 ・10個以上あるおはじきやブロック等をちょうど10個入る卵パックや製氷皿を利用して、10と端数にわけて数を数える。(学・人に関する活動)。
	9	(知及技)加法が用いられる合併や増加等の場合について理解し、1位数と2位数の和が20までの加法の計算ができる。(小3段階Aイ(ア)⑦⑧)。 (思判表力)「あわせて」や「みんなで」等の文言から加法が用いられる場面を式に表すことができる。(小3段階Aイ(イ)⑦)。 (学・人)進んで学習に参加し、具体物を数えて和を求めようとしている。	(知・技)20までの数の範囲で具体物を用いて加法の計算をしようとしている。 (思・判・表)「あわせて」や「みんなで」等の文言に気づき、加法が用いられる場面を式に表そうとしている。 (主学)進んで学習に参加し、具体物を数えて和を求めようとしている。	「数と計算」 ・加法の意味 ・加法の式 ・加法の計算	・あめ玉やおはじき等を用いて和を求める。(知及技に関する活動) ・「あわせて」や「みんなで」等の言葉の意味を具体物を用いて確認し、式で表して答えを求める。(思判表力に関する活動)。 ・。(知及技に関する活動)
2 学期	12	(知及技)前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。(C図形 ア ウ) (思判表力)身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。(C図形 ア ア) (学・人)身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、算数に主体的に関わることができる。(小3段階)	(知・技)前後、左右、上下などの方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表している。 (思判表力)ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作して考えることができる。 (主学)算数で学んだことの良さや楽しさを感じ意欲的に学習することができる。	ものの位置関係	・何番目ゲーム
	12	(知及技)色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目して分類することができる。(小2段階Bア(ア)⑦)。 (思判表力)ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすことができる。(小2段階Bイ(イ)⑦)。 (学・人)身の回りにあるものの要素に関心に向け、着目する要素を持つ物を探し出すことができる。	(知・技)何に着目すべきかを理解して、分類しようとしている。 (思・判・表)共通点や差異点について考えようとしている。 (主学)進んで学習に取り組み、身の回りのものにあるものを分類しようとしている。	「図形」 ・なかまわけをしよう ・身の回りにあるものを分けてみよう	・具体物の分類を行う。同じものでも着目する要素が違えば違う仲間に入ることを確認する。(知及技に関する活動) ・1つの要素を決め、その要素を持つ物を身の回りから探し出す。(思判表力に関する活動)(学・人に関する活動)。
	6	(知及技)身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ることができる。(小2段階Bイ⑦)。 (思判表力)身の回りにあるものの形に関心に向け、丸や三角、四角に分けることができる。(小2段階Bイ⑦)。 (学・人)身の回りにあるものの形に関心に向け、身近なものと形を対応することができる。	(知・技)丸や三角、四角という名称を知ろうとしている。 (思・判・表)丸や三角、四角を考えながら分けようとしている。 (主学)身の回りにあるものの形に関心に向け、身近な物と形を対応しようとしている。	「図形」 ・丸、三角、四角の形を知ろう。 ・身の回りのものを丸や三角、四角のグループに分けてみよう。	・丸や三角、四角の形や名称を写真や絵カードで知り、その違いを知る(知及技に関する活動)。 ・生徒の好きなものや身の回りのものを、丸や三角、四角に自分で判断しながらそれぞれのグループに分ける(思判表力に関する活動)。 ・実際に自分の身の回りのものを、教師と一緒にそれぞれのグループに分別してみる(学・人に関する活動)。
	6	(知及技)具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。(小3段階Bア(ア)④)。 (思判表力)身の回りにあるものの形を図形として捉えることができる。(小3段階Aイ(イ)⑦)。 (学・人)身の回りにあるものの形に関心に向け、身近なものと形を対応させることができる。	(知・技)具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。 (思・判・表)身の回りにあるものの中から形のみに着目して丸、三角、四角を見つることができる。 (主学)身の回りにあるものの形に関心に向け、身近なものと形を対応させることができる。	「図形」 ・色板で遊ぼう ・積み木や箱で遊ぼう ・図形を探そう	・色板や積み木を使って身の回りの具体物の形を作ったり、作った形から具体物を想像したりする。(知及技に関する活動) ・身の回りにあるものの中から丸、三角、四角を探す(思判表力に関する活動)(学・人に関する活動)
6	(知及技)直線について知ることができる。(中1段階Bア(ア)⑦)。 (思判表力)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りの物の形を図形として捉えることができる。(中1段階Bア(イ)⑦)。 (学・人)図形に進んで関わり、身の回りのものから直線を見付けようとしている。	(知・技)直線について知ることができる。 (思・判・表)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りの物の形を図形として捉えることができる。 (主学)図形に進んで関わり、身の回りのものから直線を見付けようとしている。	「図形」 ・直線って何？ ・直線を引いてみよう ・直線を探そう	・直線の定義を知り、ものさしの使い方を確認して、直線を引き。(知及技に関する活動) ・身の回りのものから直線を探す。(思判表力に関する活動)(学・人に関する活動)	

3 学期	18	(知及技)硬貨の種類や金銭の扱い方に関心を持つことができる。(小生活1段階イ) (思判表力)教師と一緒に簡単な金銭の扱いができる。(小生活1段階ア) (学・人)金銭に関心に向け、日常生活に関連して対応することができる。	(知・技)硬貨の種類や金銭の扱い方に関心を持つようとしている。 (思・判・表)教師と一緒に簡単な金銭の扱いをしようとしている。 (主学)金銭に関心に向け、日常生活に関連して対応しようとしている。	「金銭」 ・お金の種類を知ろう。 ・お金の支払いを体験してみよう。	・硬貨の種類やそれぞれの金額を知る(知及技に関する活動)。 ・教師が示した硬貨を、複数の硬貨から選ぶ(思判表力に関する活動) ・模擬買い物を通して、自分の好きな商品を選び、その値段に合わせた硬貨を選び、支払う(学・人に関する活動)。
	12	(知及技)乗法が用いられる場合や意味について知ることができる。(中1段階Aウ㊟) (思判表力)数量の関係に着目し、乗法の計算の仕方を考えることができる。(中1段階Aウ㊟) (学・人)乗法が用いられる場合について関心を持つことができる。	(知・技)乗法が用いられる場合や意味について知ろうとしている。 (思・判・表)同じまとまりがいくつかあるとき、簡単に計算する方法について教師と一緒に考察することができる。 (主学)数を数える際に、まとまりを使って数えようとしたり、乗法を用いて数えようとしたりしている。	「数と計算」 ・同じまとまりがいくつかあるとき計算する方法をがんと得る。 ・かけ算九九について知り、乗数、被乗数がともに5以内の乗法をする。	・数を2つのまとまりや3つのまとまりに分け、数を数える活動。(思判表力に関する活動) ・2つのまとまりや3つのまとまりに分け、簡単に数える方法(乗法)について学ぶ。(知及技に関する活動) ・乗法が用いられる場合に式を立てたり、図で乗法の計算方法を表したりする活動。(思判表力に関する活動) ・かけ算九九で5の段までの計算をしたり、歌を聴いたりする。(知及技に関する活動)
年間 を通して		(知及技)ものの集まりや数詞と対応して数字がわかり、個数を正しく数えたり書き表したりすることができる。(小2段階Aア㊟㊠) (思判表力)数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の考え方や、表し方について考えることができる。(小2段階Aア㊟) (学・人)身の回りにあるものの数に関心に向け、身近なものとの数を対応させることができる。	(知・技)ものの集まりや数詞と対応して数字がわかり、個数を正しく数えたり書き表したりしている。 (思・判・表)数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の考え方や、表し方について考えようとしている。 (主学)身の回りにあるものの数に関心に向け、身近なものとの数を対応しようとしている。	「数と計算」 ・数字の歌を歌ってみよう。 ・カレンダーの日付を読んでもみよう。 ・10までの数と具体物のマッチング	・「数字の歌」を聴きながら順番よく数唱する(知及技に関する活動)。 ・カレンダーを用いて、日付を順番よく数唱する(知及技に関する活動)。 ・教師が言った数に対して、数字カードに視線を向けたり、指さしをしたり、数字カードを選ぶ(思判表力に関する活動)。 ・生徒の好きな物を絵カードに用いて、具体物を数えて数字とマッチングする(思判表力に関する活動)(学・人に関する活動)。
		(知及技)多い、少ないの用語がわかる。(小1段階Dア㊟) (思判表力)多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。(小1段階Dア㊟) (学・人)身の回りにあるものの多少に関心に向け、身近なものとの多少を対応することができる。	(知・技)多い、少ないの用語がわかろうとしている。 (思・判・表)多い、少ないを考えながら表現しようとしている。 (主学)身の回りにあるものの多少に関心に向け、身近なものとの多少を対応しようとしている。	「測定」 ・身の回りのものの数を比べてみよう。	・多い、少ないの用語を写真や絵カードで知り、その違いを理解する(知及技に関する活動)。 ・生徒の好きなものや身の回りのものを比べ、自分で判断しながら分ける(思判表力に関する活動)(学・人に関する活動)。
		(知及技)日常生活の中で時刻を読むことができる。(小3段階Cイ(ア)㊟) (思判表力)時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結びつけて表現することができる。(小3段階Cイ(イ)㊟) (学・人)時間と時刻の学習に進んで取り組み、日常の場面に関連付けて時刻や時間を読もうとしている。	(知・技)アナログ時計の仕組みを知ろうとしている。 (思・判・表)アナログ時計を見て、教師と一緒に正時の時刻を選んだり、読もうとしている。 (主学)時刻に関心に向け、日常生活に関連して対応しようとしている。	「時刻」 ・アナログ時計を知ろう。 ・自分の生活の時刻を知ろう。	・時計の仕組みを知り、それぞれの針が示す役割を知る(知及技に関する活動)。 ・教師が示したアナログ時計を見て、時刻の示されたカードを選ぶ(思判表力に関する活動)。 ・自分の生活と時刻を関連付け、それぞれの生活の時刻を教師と一緒に時計の絵カードから選ぶ(学・人に関する活動)。
留意点 引継ぎ等	生徒の実態や学習到達度、学習状況に応じて、単元等の順番を入れ替えて学習する場合もある。				